

映画から見る中東社会の変容

中東一「西」と「東」を繋ぎとめ、人類史の初期の時代から登場し、多くの民族、言語、文化、宗教、思想を育んできた文明と知の発祥の地。長い時代を通じて、様々な王朝や国家が現れては消え、平和と戦争が繰り返されてきました。しかし、そこに変わらずあったものは人々の日々の生活であり、それぞれの人生の物語でした。かの地の作り手たちの眼差しを通じ、この地域の移りゆく社会について学び、そこに生きる人々の生活や人生について考えをめぐらせてみようという会です。どうぞふるってご参加ください。

【今回のテーマ】

「キアロスタミ：人間像」

アッバス・キアロスタミが亡くなって7月4日で一年となります。彼は対外的にイラン映画文化を代表する最も著名な監督でした。しかし、おそらくはその偉大さゆえ、国内において社会に投影された人物像と彼の実像の間に乖離が生じていた(いる)と言わざるを得ません。本研究会では、主に彼の作品を通じて「革命」、「女性」、「近代化」等政治・社会問題や「生」や「死」等哲学的な問題に対する彼の立ち位置およびその変化に関する一つの「イラン的な見方」を紹介します。

題材：『風が吹くまま』

1999年イラン／アッバス・キアロスタミ監督作品

日時： 2017年7月5日（水）17:30～（17時開場）

コメンテーター：ケイワン・アブドリ（神奈川大学）

会場： 東京大学 東洋文化研究所 3階 大会議室

※ どなたでもご参加いただけます
準備の都合上、事前に参加希望の
ご連絡をお願いします
MEcinema2014@gmail.com

※ 参加は無料です

【主催】中東映画研究会

【共催】東京大学・東洋学研究情報センター・セミナー
東文研・班研究「中東の社会変容と思想運動」

お問い合わせ MEcinema2014@gmail.com